

# いっぽん!

## H18第1号

発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会  
公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com>

発行責任者 伊藤文博

連絡先 025-562-3988

E-mail [f-ito@fumihiro-ito.com](mailto:f-ito@fumihiro-ito.com)

### 新糸魚川市議会

昨年3月19日に合併し、新糸魚川市も一年を経過しました。

「町」と「市」議会の違いは予想通り大きいもので、それぞれの議員に戸惑いも感じられた当初でしたが、5月の臨時議会以来4回の定例会を経た今では、それぞれペースをつかみ、持ち味を出しての活動が展開されています。

もとより、合併によりパラダイスが拓けるわけではありません。この一年間は、一市二町が一緒になって馴染むことに一生懸命の一年間でした。

この先が本当の正念場となります。米田市長は、

健康づくり

産業振興

交通ネットワーク形成

を柱として平成18年度の予算編成を行いました。いずれも重要なテーマです。



### 総合計画

重要なテーマと言えば、現在、総合計画の策定中であり、本年9月を目途に基本構想・基本計画が立てられます。

総合計画とは、地域づくりの最上位に位置づけられる行政計画であり、長期展望に立った計画的、効率的な行政運営の指針を示すものです。

現在は、社会・経済情勢が目まぐるしく変化し、地方を取り巻く状況も今後一層厳しくなることが予想されます。

このような中で、少子高齢化問題、環境問題などの様々な問題を的確に捉え、住民と行政協働型の総合計画策定が重要な課題となっています。

一般に、総合計画は基本構想・基本計画・実施計画の3本柱で構成され、基本構想については、1969（昭和44）年の地方自治法の改正によって議会の議決を経て策定することが義務づけられています。

基本構想は平成19年度を初年度として10ヶ年を単位とします。

基本計画は平成19年度から23年度までを前期、平成24年度から28年度を後期とします。

実施計画は、3ヶ年単位で



「糸魚川市になってどうか・・・と良く聞かれますが、「これからでしょう」ということです。

合併前から調整課題が山積みなのは分かっています。その調整にも増して、これから新糸魚川市をどう築き上げるのが大切であり、その意味の「これから」が重要だと思えます。

合併してもしなくても訪れる「少子・高齢化」「財政の悪化」などにどう対応していくか、要するにこれからの「まちづくり」をどうするかは地方自治体にとつて最も重要な課題であり、合併による調整事項は当然市民の不利益にならないように進めていく必要がありますが、それ同様に大切な仕事も緊急の課題として存在していることを常に意識していく必要があります。

合併後一年経った今が本当のスタートラインです。合併により何か劇的に変わるといったことはありません。合併後に何をやるかが大切なのです。

米田市政に「糸魚川5万市民」の命運が掛かっています。

総合計画の目標とする将来像としては

生活基盤分野  
 交通ネットワークの整備  
 北陸新幹線開通に向けたまちづくり  
 地域情報化の推進  
 質の高い住環境の整備  
 国土の保全と整備  
 生活環境分野  
 自然環境の保全と資源循環型社会の形成  
 安全・安心のまちづくり  
 産業分野  
 働きやすい労働環境づくり  
 活力ある商工業の振興  
 魅力ある観光の振興  
 農林水産業の振興



教育分野  
 幼児教育・学校教育の充実  
 生涯学習の充実  
 文化の振興  
 生涯スポーツの振興  
 健康福祉分野  
 子どものすこやかな成長支援  
 高齢者への支援  
 地域で支え合う福祉の推進  
 健康づくりの推進  
 医療体制の充実  
 地域づくり・自治分野  
 自主的・主体的なまちづくり  
 効率的な行財政運営の推進

を上げています。  
 今後細部にわたり検討され、  
 4～5月に住民懇談会  
 7月に基本構想・基本計画の最終答申  
 9月議会での審議  
 となるはずですが、重要な計画です、住民と行政協働型の総合計画策定のためにも皆さんで関心を持ってください。

行政依存時代は終わり？

何でも行政に依存出来る時代は過ぎてしまいました。私たち一人一人が、この世の中の現在と行く末に関心を持ち、自分で出来ることは行っていく「市民参画」「市民協働」が求められています。

行政は弱者を保護することに主眼をおいた政策を展開せざるを得ません。自力で出来ることは「自力で行う」「市民参加」「市民参画」「市民協働」の観念を世間一般に常識としなければ、この社会は成り立たなくなってしまう。弱い人を廻りで助けていく姿勢が益々重要となります。

行政改革

また、行政改革大綱も策定作業中で、三つの基本を上げています。

協働によるまちづくり  
 成果を重視した行財政運営  
 分権時代にふさわしい組織づくり  
 議会の「行政改革調査推進特別委員会」でも熱心な審議が重ねられています。私も委員の一員として勉強しながら、質疑を重ねています。行政改革は国を



挙げての大命題です  
 を達成するには、前項の「市民協働」の意識づくりが重要です。そのためには、行政と市民のコミュニケーションが今まで以上に重要な意味を持つてきます。

市民協働・市民参画

現状では、各種民間委員を公募しても、応募者は極めて少ない状況です。このことは、市民は「行政に任せておけば・・・」という意識が強く、「市民協働」「市民参加」「市民参画」の意識はまだまだ低いことを現しています。

これまで、そう強くは求められていなかったわけですから、当然のことといえます。行政にとっては、その意志をどう市民に伝え、「協働」の意識をどう高めるかは大きな課題です。ただ、お題目を唱えるだけでは実現しません。

業務改善 (PDCA)

私がこの一年間、折に触れて発言してきたことがあります。それは、行政の業務改善のシステムです。

- P II 計画 (プラン)
- D II 実行 (ドゥ)
- C II 検討 (チェック)
- A II 改善 (アクト)

というサイクルの確立は、民間企業では当然となつていますが、行政の一番弱い部分だと言われています。行政は、法律や条例に従つて「計画」を策定します。これが大きな仕事となつていますが、時にはそれで仕事が終わつてしまいます。PからDにさえも進まない場合もあるといわれています。

【「計画」し、その計画を「実行」して、その結果、問題点や改善すべき点を洗い出す「検討」をして、「改善」方法を決定・改善する】というP D C Aというサイクルを継続的に実行していくことが、常に問題点を洗い出して改善していく代表的な手法です。  
 市当局でも、「総合計画」「行政改革」に伴い、P D C Aのサイクルを確立したと言っています。

## 一般質問から

4回の定例会で一般質問を行いました。その概要をお知らせします。  
時間があれば、是非議会を傍聴してください。

## 6月定例会

## 少子化対策

「少子の克服は国家的課題」  
政府が少子の危機を言い出してから10年以上がたち、厚生労働省は2兆7千億円の予算を投じ、保育所の定員増などを行ってきたが、出生率は下がるばかりです。

国と地方自治体が行うべきことは違います。

少子化が進む現状をどのように考えていますか。  
少子の大きな原因は何だと思われませんか。

3人目以降の教育費の補助をどう考えますか。

少子化対策（育児支援）の対象に世帯収入や就業の有無、定員などの制約があることをどう考えていますか。

少子化に対する具体的な政策は検討済みですか。

## 【ポイント】

新糸魚川市の1世帯当たりの平均人数が2.98。  
核家族化が進んでいて、家族で子育ての仕組みが都会並みに崩れてきている。そのような中で、働く母親への支援が重要。

石川県知事は、18歳未満の子供が3人以上いる県内1万9千世帯に「プレミアムパスポート」を発行し、商店で見せると代金が安くなるシステムを作った。

上越市がこれに倣って「子育てジョイカード事業」を新年度（H18）から始める。

両方ともコストは協賛企業持ち。企業としても少子化は死活問題のため、官民一体となった取り組みです。

同じ石川県の輪島市では「子宝支援策」として不妊治療費の年間百万円までは自己負担三割で済むようにしました。日本では新生児の百人に1人が体外受精児であって、47万人が不妊治療を受けているそうです。



## 産業振興

当市の産業の現状と、これまでの産業振興への取り組みをどう評価し、今後の課題は何か。

既存企業への支援は。新規企業誘致の具体的な支援策は。

既存企業の新規業種への参入に対する支援は。

## 【ポイント】

「企業誘致」の先進地では専門の部署を設け熱心に取り組んでいる。糸魚川市は兼務体制で、企業誘致は困難な情勢。

## 9月定例会

## 健康づくり

須沢の総合福祉センターを建て替え充実して「総合健康センター」とし、市の健康づくりの中核施設として活用する健康づくりの推進には、大いに期待します。

総合健康センターの機能に何を付加し、ハード、ソフト両面の配備をどのように考えているか。

中核施設は各地区での地道な活動に支えられてこそ活きる。連携の構想は。

## 【ポイント】

「健全な精神は健全な肉体に宿る」は、高齢者に最も当てはまる。健康づくり

を推進するためには、市民それぞれの健康状態にに応じたメニューを立てて運動の指導ができる健康運動指導士などの配置が重要です。



## 自主防災組織

新市の防災計画取りまとめの時期とその方向性は。自主防災組織についてはどのような構想か。  
災害の種類によって避難所は適切に分類され、住民に周知されているか。そして、避難勧告の方法は。

## 【ポイント】

計画はあっても、実行に移す手順（何時、どこで、誰が、何を、どのように、どうするか）が決められていない。行政全般に「計画」はあっても「手順」がない傾向がある。これでは計画の実行は困難＝

## 情報ネットワークプロジェクトの推進

情報サービスの提供は。市の公式HPでの情報入手のしやすさについてどう評価し、改善するのか。庁内情報化の整備状況はどうか。

「情報化に関する基本計画の策定」「個人情報保護条例」など、情報化に関する政策の実施状況はセキユリティ対策の実施状況はどうか  
現在の防災情報の提供状況は。

新市建設計画の、地域情報ネットワーク事業基盤整備（光ファイバー網による整備）36億円の根拠は。

## 【ポイント】

単にインターネットやテレビの問題ではなく、例えば、「市民協働」のまちづくりのための、行政と市民の情報共有を含めたコミュニケーションの基盤としてなど、どう活かすために整備するのが重要です。





総合計画及び行政改革を確実・効果的に実行するための科学的事務進行管理システム(PDCA)の構築

市長の方針を明確にし、庁内・住民に徹底し分かりやすく伝える手法は各計画の市長による定期的な見直し・改善指示は。市長が必要な「経営資源」を提供する責任遂行の手法は。

住民サービス全般に対する内部監査実施は。住民満足度向上の継続的改善のシステム作りは市政全般について市民と職員からの改善提案の募集・受付は。

【ポイント】

2ページの「業務改善(PDCA)」のとおり



教育現場における危機管理システムの構築・徹底

危険の状態・程度に応じた有効なシステム化された危機管理が求められます。現在の危機管理システムは、危険のケース分類、危険状況のレベル分類がなされた上で、ケース・レベル毎の対応が明確に定められ、確実に実行されるシステムになっていきます。

現在の問題点をどう認識しているか。そして、今後の改善スケジュールは。

【ポイント】

「不審者情報」などがもたらされた時点で、集団下校するなど、臨機応変に、且つ個人差のない対応ができるシステム構築が必要。

3月定例会

観光振興について

当市には2つのスキー場、2つのゴルフ場、多くの登山ルートがあるが、市として年間を通じての観光誘致策は小松空港、富山空港、能登空港との連携による、海外観光客の誘致は

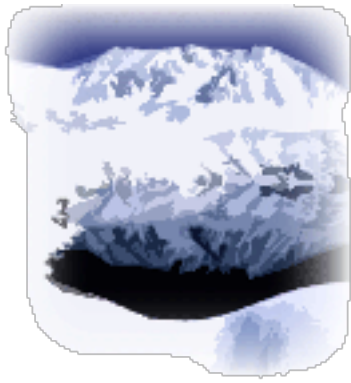
福来口鍾乳洞については、観光資源としての特性と企業との共存の可能性を探り、方向性を見いだすべき時期に来ているが、今後の取り組みは。

【ポイント】

小松・ソウル間は週4往復、平成16年は年間6万人が利用し、内韓国人が2万4千人。毎回チャーターバスで白馬方面に観光に来るといふ。目的はスキーと登山で1年を通して実施されています。

2003年度は、年間1万2千人の韓国人旅行者が長野県を訪れ、うち、約7千人は白馬を目的地としていたそうです。

白馬より近い糸魚川市のスキー場や、小野健さんがそのすばらしさを説いている梅海新道を初めとする登山ルートの売り込みを考え、課題は宿泊施設。



行政改革における業務改善について

日常業務の業務改善手法は。総合計画の策定に関する市民アンケート結果の内、業務改善に繋げるべき内容が多く含まれているが、その分析と改善は

【ポイント】

改善提案制度

現場の職員による「改善提案」の活用も大事な手法だと提案してきました。現在、改善提案の制度はあるものの十分に活用されているとは言えない状況です。実効のある改善提案制度には「目標設定」が不可欠です。何のための改善を求めるといふ明確なコンセプトがないと活発な改善提案には結びつきません。

また、提案に対するノルマも有効です。各課・係を単位に「月に何件」というふうに改善提案を義務づけるといふ方法もあります。

男女共同参画プラン

国の第2次男女共同参画基本計画が定められたが、当市の男女共同参画プラン策定の計画と状態は。「ジェンダーフリー」という言葉は「意味や内容が使用する人によって様々で、誤解や混乱が生じている」(東京都教育委員会)とされています。市長の見解と今後の取扱い方針は。

【ポイント】

「男女共同参画」というと女性が権利主張をしているように取る傾向があります。根本は人権問題であることは間違いありませんが、少子高齢化の中での重要な人材活用の見直しという側面もあります。本当の意味で男女がお互いを大切出来る世の中にしたいです。

編集後記

年末の大雪、その分一ヶ月早く冬が終わるかと思つたら、年度末にまた雪模様となりました。天候不順は健康には大敵です。お互いに健康には留意しましょう。感想等あつたらお寄せください。